

毎年好評いただいている土佐フェア、今度は夏！

夏の土佐フェア

6月15日(土)・16日(日)

試食
あります

夏においしい土佐集めました。

JA新潟市 直売所／いくとびあ食花

10周年祭

キラキラマーケット

10:00～16:00

6月15日(土)～30日(日)

おかげ様で10周年

PM 2:00～
平日限定販売

お楽しみ袋

2,000円以上入って
1,000円

キラキラ袋

毎日特価品あり

新玉ねぎ トマト 人参

石本酒造 試飲即売会

淡 (amane)

父の目
ギフトに最適！

6月15日(土)・16日(日)

車を運転される方の試飲は、固くお断りします。

元気な農家さんの
対面販売

6月22日(土)・23日(日)

マーケット店
野外テント

すいか

とうもろこし

わたあめ
おじさん登場
対面販売で
お買い物の皆様へ
わたあめプレゼント！

「お米倶楽部」会員様 限定

10%増量キャンペーン

6月15日(土)～30日(日)

但し、5キロ以上の玄米精米が対象!!

土日は大変混み合うため、精米歩合については「標準精米」のみキャンペーン対象とさせていただきます。

お米倶楽部は
即日入会でき
ます！

夏のギフト が始まります！

申込み特典あり

6/15(土)～6/30(日)の申込みで
キラキラ・コシヒカリ/3合を
プレゼント!!

令和6年産枝豆については数量不足が懸念されるため、6/30(日)で受付終了となります。

JA新潟市 直売所／いくとびあ食花

キラキラマーケット

〒950-0933 新潟県新潟市中央区清五郎336

営業時間／10:00～18:00(季節・行事により変更あり)
定休日／毎月第2火曜日 但し8月は休まず営業

TEL:025-384-8487
FAX:025-384-8470
E-MAIL: kirakiramarket@ja-niigatashi.jp
WEB: https://kirakiramarket.com

最新情報は
こちらから

キラキラマーケット HP

キラキラマーケット Facebook

キラキラマーケット X

キラキラマーケット Instagram

ごはん
と
わたし

フリーアナウンサー
新海 史子 Shinkai Fumiko

新潟市出身。
6歳の時、地元新潟でフィギュアスケートを始める。2022年、放送局を退社し現在はフリーに。
新潟市アイスリンクでフィギュアのコーチとしても活動中。
好きなものは地元・新潟の日本酒で調酒師の資格を取得。

新潟生まれ新潟育ちの私。生後6ヶ月の離乳食デビューは、新潟の郷土料理「のっぺ」の汁だったと母が教えてくれました。野菜の甘みと貝柱や椎茸の旨みがたっぷりしみ出た出汁のおいしさは赤ん坊にもわかったようで、夢中になって飲んでいたそうです。

幼稚園児になると、夏のおやつは決まって枝豆。梨茄子(白十全茄子)の漬物やもろきゅうが大好きで、チョコレートやスナック菓子には目もくれず、大人たちに用意されたつまみを楽しんでいたそうです。「この子は将来吞食衛になるね～」と、日本酒好きなおじいちゃんが言っていたのを覚えています。

おじいちゃんの予言通り、私は自他ともに認めるお酒好きになり、フリーアナウンサーになってからは調酒師の資格をとりました。

新潟の日本酒といえば淡麗辛口のイメージがありますが、新潟は酒蔵の数が日本一。それぞれの酒蔵がそれぞれの信念を持って個性豊かなお酒を醸しています。

私はそんな新潟のお酒に、新潟の食材で作ったおつまみを合わせるのが至福で、夏は冷酒と茄子漬け、冬は燗酒とぶり大根といったように、新潟の四季をお酒と食で楽しんでいます。

ミルクを卒業し、のっぺ汁に衝撃を受けた赤ん坊の頃から今まで、私は新潟の食に育まれてきたのだと思うと、料理を作ってくれた母、食材を作った下された農家の方々への感謝の気持ちが溢れます。そして母になった今、子どもにもその思いを繋いでいきたい。日本の食糧事情が不安定な今、次の世代の食が守られるように、地元の食材を大切に感謝しながらいただきたいと思います。

ごはんをいっぱい食べよう!!

令和5年産 新潟米

キラキラ・コシヒカリ	コシヒカリ	こしいぶき
精米10kg 4,520円	精米10kg 4,100円	精米10kg 3,770円
精米5kg 2,280円	精米5kg 2,070円	精米5kg 1,920円

※価格はすべて税込です。

お米の配達をご希望の方へ

JAからつき立てのお米をお届けします

025-270-2295

電話受付: [平日] 月～金 8:30～17:00

※配達料 5kg/50円 10kg/100円 上限300円

お支払いは現金に限ります。配達日が混み合う場合がございますのでご注文は早目に!

アンケートに答えると**50名様**に当たる「新潟の美味しい夏」

10名様

①新潟米食べ比べセット(1kg×6種)

10名様

②南浜大玉スイカ(2玉入)

10名様

③黒崎枝豆(11.5kg) 十全なす漬け(2袋)

10名様

④越乃寒梅(2本入)

10名様

⑤ジェラートの詰め合わせ(8個入)

【回答締切】令和6年7月15日(月・祝)

※右記QRコードでご応募ください。
(回答はお一人様一回限りでお願いします。)

※当選者の発表は、厳正なる抽選のうえ、2024年7月下旬ごろ、当選品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

※ご記入いただいた個人情報は、集計、抽選、JA事業のご案内以外には使用いたしません。

アンケートQRコード

発行所：新潟市農業協同組合 編集：総務部 総務企画課 HP: http://www2.ja-niigatashi.or.jp/ 〒950-0806 新潟市東区海老ヶ瀬512-1 TEL (025) 270-2222 (代表) FAX (025) 270-2292 E-mail: honten.soumu@ja-niigatashi.or.jp

JA新潟市 お米の注文係

この情報誌はJA共済連新潟の JA地域貢献活動促進助成金を活用しています。

※誌上の記事・写真の無断転載を禁じます。

JA新潟市

印刷：富士印刷株式会社

きらきら らいふ

Kirakira
Life

2024
SUMMER
VOL.13

Let's goto
the market!!

Contents

- 日本の農業と食を守る
- ごはんとわたし
- キラキラマーケット10周年祭
- アンケートに答えて当たる「新潟の美味しい夏」



ふじき
藤木しんや参議院議員

熊本県上益城郡出身。
元JAかみまき組合長・元JA全青協会長。
前農林水産大臣政務官(2期)。
現在、参議院自由民主党 副幹事長、
同農林水産委員会委員、自民党農林部会長代理。



国消
—こしょうこくさん—
国産



いしやまたくし
石山德行代表理事組合長

新潟県新潟市北区出身。
現在も米農家として農業に励む。
2016年JA新潟市副組合長に就任。
2019年4月同JA代表理事組合長に就任。

新海 藤木議員、新潟へようこそお越しくださいました。
藤木 新潟にはよくお邪魔させていただいていますが、お米も魚も美味しくて新潟の強みだと感じます。
新海 本日はよろしくお願いします。

課題は担い手確保と経営継続

新海 まずは農業の課題について組合長に伺います。
石山 近年、肥料や燃料価格が高騰して農家の経営を圧迫しています。さらに昨年の猛暑・渇水によってコシヒカリは過去にないほどの品質低下となりました。
新海 昨年は本当に暑くて農家の方は大変だったと思います。
石山 新潟県では暑さに強い水稻品種の育成を急いでいるところですが、品種改良には長い時間がかかります。



しんかいふみこ
新海史子フリーアナウンサー

新潟市出身。6歳からフィギュアスケートを始める。2022年地元放送局を退社後フリーに。フィギュアコーチとしても活動中。好きなものは地元・新潟の日本酒。

す。地球温暖化に伴う高温傾向には懸念しています。
藤木 農業は自然が相手なので気候変動が大きく影響します。品種改良は大事なことです。長い時間と費用がかかりますので、気候の変化に合わせて作業のやり方を考える必要もあると感じます。
石山 作業を遅らせる高温対策は新潟県でも取り組んでいます。しかし、家族経営の場合は5月の連休に家族が協力して一斉に田植えをしているのが実態です。経営規模の大きい農家では早生品種、コシヒカリ、晩生品種を導入して作業分散を図っています。

事業継承しやすい環境づくりを

新海 担い手不足というお話がありました。農家はずいぶん減っているのでしょうか。
石山 そうですね。高齢化や跡継ぎがいらないなど、**当JA管内では毎年50人以上が離農しています。**
新海 離農された方の農地はどうなるのでしょうか。
石山 大規模農家や農業法人に委託されるのが一般的ですが、すでに目一杯受け入れているような現状です。耕作放棄地にならないよう、農地の所有者だけでなく集落、行政、JAなどで話し合って農地集積を進める必要があります。
新海 農家以外の方が就農するケースはあまりないのでしょうか。
藤木 そういう方ももちろんいますし、行政の支援も手厚くなっています。私は、農家の息子さんが跡を継ぐ場合も同じようにしっかり支援して、事業継承しやすい環境を作ることも大事だと思っています。最近ようやく様々な支援が具体化してきました。
新海 具体的にはどのような支援でしょうか。

藤木 機械の更新時に無利子の資金提供を行ったり、当初3年間は所得支援をしたり、農業大学校などの学費支援などがあります。
石山 JAでも新規就農者への助成支援を行っており、当JA管内では平成28年からの累計で計50名になりました。栽培指導や経営支援のほか、JA青年部活動での情報交換等を通じてサポートしています。

平時の食料安全保障を考える時期

新海 農業経営のなかでコスト増の問題についてはいかがでしょうか。
藤木 肥料価格の高騰についてはウクライナ情勢や円安等もありますが、世界的な人口増加と食料不足が顕著になっていて、特に中国が肥料原料の輸出を止めたことが大きな要因です。肥料原料の調達先を確保することは大変重要と捉えています。
新海 怖い気がします。大丈夫なのでしょう。
石山 大規模農家はどコスト増加の影響を受けています。国には農家が将来にわたって安心して続けられるビジョンを示してほしいというのが本音です。
藤木 担い手不足や経営継続の問題、世界的な食料事情を考えると、**国民の食料をどのように確保していくか、「平時の食料安全保障」を真剣に考えなくてはならない時期だと考えています。**
新海 まずは日本の農業が大事になるというわけですね。
藤木 すべての国内産業に言えることですが、日本は何十年も輸入に頼ってきました。しかし、コロナ禍やウクライナ戦争で輸入ありきの状況が危ういことや、肥料原料も中国に頼りすぎたことが分かりました。その反省

に立って、「食料・農業・農村基本法」では食料の安定供給や農業の持続的発展など、輸入や備蓄と共に、食料生産力を高めることを目指しています。

マーケットインの考え方が重要

新海 日本人の食生活の変化についてはいかがでしょうか。
藤木 国民の食生活が変化して小麦の消費量が伸びていて、数年の間に主食が米から小麦に代わると考えられています。農家としても固定概念を外して現状を受け止めて、マーケットインの戦略を練る必要があると思います。**麦は85%、大豆は93%を輸入に頼っています。それらを国産品に置き換えていくことは極めて重要です。**
石山 私も前に麦を作ったことがありますが、非常に難しいと感じました。
藤木 分かります。熊本は小麦の主力産地になっていますが、いろいろな失敗や排水対策をしながら何十年もかけて安定させてきました。新潟では北海道の小麦の栽培体系を参考にしたら面白いのではないかと思います。
石山 やはり収入の柱となる作物が大事だと思います。当JAの南浜地域は以前、葉タバコの産地でしたが、廃作後は首都圏市場からの要望もありスイカやメロンに加え、甘藷、ネギなどの栽培が盛んになりました。行政の支援を受けながらハウス団地を拡充し若い後継者も増えています。
新海 儲かる農業が担い手不足の解消にもつながるといことですね。
藤木 平成17年当時、日本の基幹的農業従事者は約240万人でしたが、今は約半分の120万人に減少しました。これは農業で生活が成り立たないことにほかなり

ません。地域の条件に合わせながら米と麦、米と園芸などを組み合わせて農家所得1千万円をめざしてほしいです。これからの国策は「食料安全保障」に移ることは間違いなく、国からの支援も受けやすくなると思います。

農業を守ることは自分や家族を守ること

石山 農畜産物は生産コストの増加を販売額に転嫁することが難しく、天候にも影響されますので農家経営は非常に厳しくなっています。
藤木 お米や青果物など生産コストの増加に見合った価格設定は難しいのが現実です。**合理的な価格形成の仕組みを作るのも基本法の目的です。**
石山 ただ、そのためには消費者の理解を十分に得なければなりません。JAとしても広報に取り組んでいます。国が正しい情報を国民に伝えることが大事だと思います。
新海 農業を守ることは自分自身や家族を守ることなんです。お互いに支え合っていかなければならないことが分かりました。
藤木 日本のカロリーベース食料自給率は38%となっています。生産額ベースの食料自給率も58%となっており危機的な状況です。農家や消費者にもこのような状況だということに気付いていただきたいです。
石山 昨年、当JAが地域向けに行ったアンケートでは「JAに期待すること」として「日本の農業を守ること」が**トップになりました。消費者の考え方も変化していると実感しています。**

頑張る農家の声を届ける今が正念場！

新海 JAではどのようなことに取り組んでいますか。

石山 近年は園芸品目の生産拡大や農産物直売所にも力を入れており、**キラキラマーケットの売り上げは農家収入の増加につながりますので今後も力をいれてまいります。**

新海 キラキラマーケットは私もよく行きます。農家の方の顔が見えるのは安心ですし、なんでも新鮮でおいしいです。雰囲気も明るくて楽しいですよ。
石山 ご利用ありがとうございます。直売所では中小規模の農家も頑張っています。多様な農家の声を届けることもJAの大事な役割です。藤木議員からは農家の声を吸い上げて国政に活かしていただきたいです。
新海 藤木先生、頑張ってください！
藤木 今が正念場だと思っています。精いっぱい頑張りますのでよろしくお願いします。
新海 今日はとても考えさせられました。ありがとうございます。



(対談日:令和6年2月10日) 会場:ANAクラウンプラザホテル新潟

林先生と学ぶ
どうする日本の「食」

JAグループサポーター・林 修

適正な価格形成を実現するため、
法律の制定に向けた検討が開始。

生産資材や流通コストの適正な価格転嫁は、私たちが食べ物を食べ続けるために必要なことです。これは日本だけの課題ではありません。フランスでは自動的にコストの変動分を価格転嫁できる法律がつけられました。日本でも今、「農政の憲法」といわれる「食料・農業・農村基本法」の見直しが進められており、適正な価格形成に向けた法律の制定を行うことが政府より示されました。

JAグループ

農業従事者数や農地面積は年々減少。

食料自給率は38%まで低迷しているのが現状です。また、農業従事者は、毎年約6万人のペースで減少。さらに、平均年齢は68.4歳(2022年)と高齢化が進んでいます。農地も、ピーク時から約176万ヘクタール、四国と同じくらの面積が減っています。

基幹的農業従事者の推移

年平均6万人が減少

122.6万人

出典:農林水産省「農林業センサス」「農業構造現勢調査」

生産資材価格が上がっている一方で、「国産」の農畜産物価格は横ばい。

農業の現場では、肥料、家畜のエサ、燃料などの生産にかかせない資材や、流通コストが高騰を続けています。一方で、それらの増加分が、農畜産物の価格に適正に反映できておらず、生産者は大変な苦境に立たされています。今、私たちにできることは、「国産」を食べて応援することではないでしょうか。

そんななか、生産者は挑戦を続けています。

生産者・JAグループは、消費者ニーズに応えながら、ドローンなどの新技術の導入や、化学肥料・農業の利用量削減など、生産コストを低減する取り組みを進めています。

【食料自給率の比較】
カロリーベース

38

出典:農林水産省(諸外国は2013年の数字、日本は2019年の数字を使用)

農業応援のためにJAに期待することは？(複数回答可)

2023年12月発行JAコミュニティ誌「きらきららいう。」アンケートより

日本の農業・食を守る活動 386

農産物直売所の充実 366

農業担い手への支援 319

子供たちに食と農業の大切さを伝える食育活動 293

農産物の積極的なPR 289

スマート農業などを通じたコスト軽減 166

総合事業(JAバンク・JA共済)を通じたバックアップ 74

その他 20